ネットワーク

がんばってまーす

環境政策係、２年目を迎えて

宮城県栗原市市民生活部環境課環境政策係長
鈴木（すずき）　敬（けい）

栗原市は平成17年４月１日、全国でも例の少ない10町村が合併して誕生しました。宮城県の内陸北部に位置し、県内最大の面積を誇る本市は、宮城・岩手・秋田の３県にまたがる秀峰栗駒山（くりこまやま）をはじめ、国内でも屈指の渡り鳥の飛来地である伊豆沼・内沼といった豊かな自然に加え、合併前の各地から引き継がれてきた数多くの伝統行事が今なお残るなど、歴史や文化にも恵まれた田園都市です。

また、市内には東北自動車道の２つのインターチェンジと、東北新幹線の「くりこま高原駅」があり、東北エリアのちょうど中心部（へそ）に位置していることもあり、各方面からのアクセスのしやすさも自慢の一つです。

一方で、平成20年岩手・宮城内陸地震、平成23年東日本大震災などの大規模な自然災害と向き合い、復興と再生への経験を未来へ伝え、持続可能な地域づくりを目指していくために、栗駒山麓崩落地の地形や景観を防災教育・学術研究・観光振興など、多目的に活用し、本市全域が「栗駒山麓ジオパーク」として、日本ジオパークの一つに認定されています。

栗駒山

さて、本市環境課は、環境政策係・生活環境係・環境施設整備係の３係で構成し、課長・課長補佐を含め、８名体制で業務に取り組んでおり、不法投棄対応や公害対策などに関しては私が所属する環境政策係が担当しています。

そんな環境政策係に配属され２年目を迎えましたが、私自身、環境部門の担当が初めてで、更にこの４月からは、市内の高校を卒業した新規採用職員を迎え、フレッシュな２名体制で現場対応に当たっています。

公害対策の経験値がまだ浅い中で、市民・事業者の相互の信頼関係を構築するためには、「情報の公開」は有効なツールであると感じています。

本市のホームページでは、事業者・宮城県・本市の三者による公害防止に関する協定に基づき、窒素酸化物・ばいじん・有害物質の排出状況のほか、排出水の水質検査や騒音・振動・悪臭の状況に関する検査結果について、できるだけ丁寧に公表しています。

本市は、冒頭にも記述したとおり10町村の合併市ということもあり、旧町時代に締結された事業者との公害防止協定についても新市に継承されていますが、事業者における公害防止対策の取組み状況を積極的に公開することで、事業所が所在する地元以外の馴染みの薄い市民の皆さんにとっても、自分たちの暮らしに直結する生活環境の保全について、理解と共有が図られていると実感しています。

ただし、まだ改善点も見受けられるため、今後、更に市民の皆さんの理解を深めてもらえるように工夫していきたいと考えています。また、「情報の公開」という点では、ホームページへの公開だけでなく、事業場施設の視察なども有益であると実感しています。

昨年度の事案の一つとして、地域内に発生する「不快臭」に関する苦情が寄せられた際、不快臭の発生源と思われる事業場に対して、県の指導機関に同行し施設内の状況について調査を行ったケースがありました。

この際の当該事業場に対する指摘事項や、今後の改善策に関する聞き取り状況等について、後日、苦情主にお伝えしましたが、不信感を払拭するまでには至らず、その後も継続案件として当該事業場を含めた苦情主とのやり取りを続けていく中で、地元自治会役員と事業場役員との意見交換の場が設定されることになり、その流れの中から、自治会役員の皆さんによる事業場施設内の視察に至りました。

この経緯に至るまで、私たち行政が調整役として入ったわけではなく、地元自治会側の要望に対して、事業場側が積極的に受け入れた両者の話し合いの中から、前進したものだと感じました。この視察において、不快臭の発生源とイメージしていた施設内を実際に見ながら、処理状況に関する説明を受ける中で、不快臭の発生を抑制しようとする事業場側の取組みに関する共通理解につながったように感じています。もちろん、この不快臭の問題が劇的に解消するものではありませんが、これを契機に生活環境の改善に向けた継続的な意見交換の場を今後も設定していく流れにつながったので、私たちとしてもこれからの推移を注視していきたいと思っています。

そして、最後に環境課２年目を迎え率直に今思うことを付け加えると、職場環境は最大のモチベーションの源だと思っています。

この数年の中で、脱炭素に向けた施策の展開や、自然環境との調和に向けた風力発電などの再生可能エネルギーの推進、家庭プラごみの分別回収の拡大など、環境課所管業務における課題が多岐に広がっている中で、不法投棄処理や公害苦情処理といった現場対応件数も増加傾向にあります。

そのような状況下において、この４月の人事異動により、環境課職員体制は１名減員の８名となりました。もちろん、環境課に限ったことではなく、他分野においても業務内容が増加傾向にある中で人員削減される厳しい現状にあります。そんな中でも業務に対するモチベーションを保ちながら、頑張れるのは、この環境課の雰囲気とチームワークの良さだと実感しています。環境部門の経験値が全くゼロだった私にとって、突発的な公害対応や漏油事故に際しては、係の枠を超えて環境課全体でフォローしてくれたり、日頃の業務においても出口が見えない状況の際には共に悩んでくれたり、着地点に導いてくれたり、頼りになる先輩・同僚に囲まれています。だからこそこの１年も乗り切ることができたと思っています。

限られた予算・限られた人員の中で、今年度も山積する課題の解消に向けて、悪戦苦闘するする日々を過ごすことになると思いますが、この環境課のチームの一員として、自分自身のパフォーマンスも磨きつつ、栗原の豊かな自然環境・生活環境を守るために日々精進していきたいと思います。

伊豆沼・内沼はすまつり